

# 第 13 回「山形県家計消費動向調査」結果

## (平成 21 年 9 月調査)

平成 21 年 9 月

株式会社荘銀総合研究所

## 目 次

I. 今月の消費指数（総括） .....	1
II. 調査結果 .....	3
1. 景気判断と見通し .....	3
① 県内景気 .....	3
② 雇用環境 .....	3
③ 日用品価格（物価） .....	4
2. 暮らし向き判断と見通し .....	6
① 世帯（勤労）収入 .....	6
② 資産価値 .....	6
③ お金の使い方（支出状況） .....	7
④ 生活のゆとり .....	7
3. 日常の買い物に関する判断と見通し .....	9
① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど） .....	9
② ファッション衣料・靴など .....	9
③ 家電・AV製品、家具など .....	10
④ 金融商品（株式、債券など） .....	10
⑤ 娯楽・レジャー .....	11
⑥ 習い事 .....	11
⑦ 交際費 .....	12
4. 大きな買い物に関する判断と見通し .....	13
① 自家用車 .....	13
② 住宅の購入・リフォーム .....	13
III. 今月の家計簿 .....	14
IV. 調査の概要 .....	15

## I. 今月の消費指数（総括）

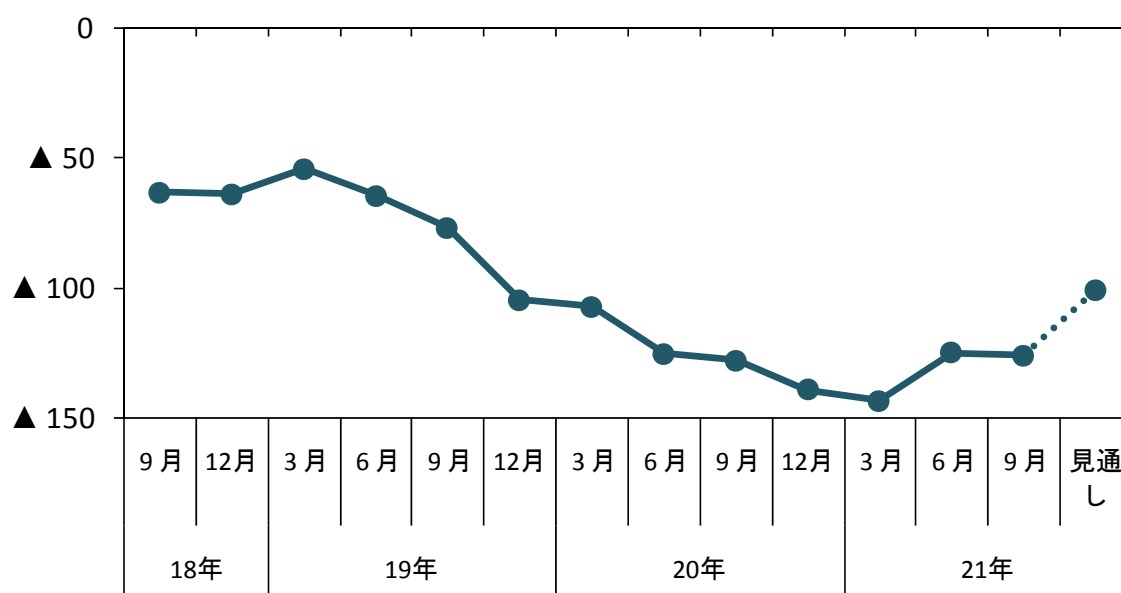
### ★ 消費指数は▲126.0～ 消費マインドは最悪期を脱したが依然として低水準で推移 ～

消費指数は前回調査時点（平成21年6月）よりも0.9ポイント低下して▲126.0となっている。最悪期は脱したものの依然として低水準で推移している。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲61.9（前期差：▲0.9）、暮らし向き指数が▲64.1（前期差：0.0）となっており、相対的に景気判断指数の低下が目立つ。特に、再び物価が上昇しているとの認識が高まったことがマインドの低下につながった。

なお、今後の見通しについては、消費指数が25.3ポイント改善して▲100.7となるなど、消費マインドに改善の兆しがうかがえる。

図表 1 消費指数の推移



図表 2 消費指数の概要

調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数						
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり			
21年	3月	▲143.6	▲77.7	▲28.4	▲30.9	▲18.4	▲65.9	▲14.4	▲16.3	▲16.1	▲19.1
	6月	▲125.1	▲61.0	▲24.1	▲27.8	▲9.1	▲64.1	▲14.2	▲16.5	▲15.0	▲18.4
	9月	▲126.0	▲61.9	▲23.4	▲26.9	▲11.6	▲64.1	▲14.0	▲15.6	▲15.6	▲18.9
前期差	▲0.9	▲0.9	0.7	0.9	▲2.5	0.0	0.2	0.9	▲0.6	▲0.5	
（寄与度）	▲0.7%	▲0.7%	0.6%	0.7%	▲2.0%	0.0%	0.2%	0.7%	▲0.5%	▲0.4%	
前年同期差	2.0	11.2	▲1.3	▲7.5	20.0	▲9.2	▲3.9	▲2.4	▲1.5	▲1.4	
（寄与度）	1.6%	8.8%	▲1.0%	▲5.9%	15.6%	▲7.2%	▲3.0%	▲1.9%	▲1.2%	▲1.1%	
21年見通し	▲100.7	▲41.3	▲12.3	▲16.7	▲12.3	▲59.4	▲14.5	▲15.4	▲14.9	▲14.6	

（注）四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数（伸び率）とは必ずしも一致しません。

#### 【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとりまします。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくはV. 調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

図表3 消費指数（内訳）の推移

消費指数										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
									景気	雇用環境
18年 9月	▲63.3	▲23.7	▲6.1	▲3.6	▲14.0	▲39.6	▲8.0	▲9.7	▲8.6	▲13.3
12月	▲64.0	▲23.0	▲7.6	▲5.0	▲10.5	▲40.8	▲8.0	▲10.1	▲9.4	▲13.4
19年 3月	▲54.5	▲17.3	▲4.7	▲4.0	▲8.6	▲37.2	▲6.8	▲9.0	▲8.5	▲12.9
6月	▲65.0	▲26.0	▲5.6	▲3.9	▲16.4	▲39.2	▲6.8	▲9.9	▲9.6	▲12.8
9月	▲77.0	▲34.5	▲8.8	▲9.1	▲16.6	▲42.5	▲8.7	▲9.3	▲10.6	▲13.9
12月	▲104.7	▲55.5	▲15.2	▲12.1	▲28.2	▲49.2	▲10.3	▲11.4	▲11.7	▲15.8
20年 3月	▲107.3	▲57.9	▲16.2	▲13.3	▲28.4	▲49.4	▲9.9	▲11.3	▲12.3	▲15.9
6月	▲125.3	▲69.5	▲20.8	▲16.7	▲32.0	▲55.8	▲10.6	▲13.3	▲13.7	▲18.2
9月	▲128.0	▲73.1	▲22.1	▲19.4	▲31.6	▲54.9	▲10.1	▲13.2	▲14.1	▲17.5
12月	▲139.2	▲77.3	▲26.0	▲27.1	▲24.2	▲61.9	▲11.9	▲15.4	▲15.9	▲18.7
21年 3月	▲143.6	▲77.7	▲28.4	▲30.9	▲18.4	▲65.9	▲14.4	▲16.3	▲16.1	▲19.1
6月	▲125.1	▲61.0	▲24.1	▲27.8	▲9.1	▲64.1	▲14.2	▲16.5	▲15.0	▲18.4
9月	▲126.0	▲61.9	▲23.4	▲26.9	▲11.6	▲64.1	▲14.0	▲15.6	▲15.6	▲18.9
見通し	▲100.7	▲41.3	▲12.3	▲16.7	▲12.3	▲59.4	▲14.5	▲15.4	▲14.9	▲14.6
(前期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
									景気	雇用環境
18年 12月	▲0.7	0.7	▲1.5	▲1.4	3.5	▲1.2	0.0	▲0.4	▲0.8	▲0.1
19年 3月	9.5	5.7	2.9	1.0	1.9	3.6	1.2	1.1	0.9	0.5
6月	▲10.5	▲8.7	▲0.9	0.1	▲7.8	▲2.0	0.0	▲0.9	▲1.1	0.1
9月	▲12.0	▲8.5	▲3.2	▲5.2	▲0.2	▲3.3	▲1.9	0.6	▲1.0	▲1.1
12月	▲27.7	▲21.0	▲6.4	▲3.0	▲11.6	▲6.7	▲1.6	▲2.1	▲1.1	▲1.9
20年 3月	▲2.6	▲2.4	▲1.0	▲1.2	▲0.2	▲0.2	0.4	0.1	▲0.6	▲0.1
6月	▲18.0	▲11.6	▲4.6	▲3.4	▲3.6	▲6.4	▲0.7	▲2.0	▲1.4	▲2.3
9月	▲2.7	▲3.6	▲1.3	▲2.7	0.4	0.9	0.5	0.1	▲0.4	0.7
12月	▲11.2	▲4.2	▲3.9	▲7.7	7.4	▲7.0	▲1.8	▲2.2	▲1.8	▲1.2
21年 3月	▲4.4	▲0.4	▲2.4	▲3.8	5.8	▲4.0	▲2.5	▲0.9	▲0.2	▲0.4
6月	18.5	16.7	4.3	3.1	9.3	1.8	0.2	▲0.2	1.1	0.7
9月	▲0.9	▲0.9	0.7	0.9	▲2.5	0.0	0.2	0.9	▲0.6	▲0.5
見通し	25.3	20.6	11.1	10.2	▲0.7	4.7	▲0.5	0.2	0.7	4.3
(前年同期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
									景気	雇用環境
19年 9月	▲13.7	▲10.8	▲2.7	▲5.5	▲2.6	▲2.9	▲0.7	0.4	▲2.0	▲0.6
12月	▲40.7	▲32.5	▲7.6	▲7.1	▲17.7	▲8.4	▲2.3	▲1.3	▲2.3	▲2.4
20年 3月	▲52.8	▲40.6	▲11.5	▲9.3	▲19.8	▲12.2	▲3.1	▲2.3	▲3.8	▲3.0
6月	▲60.3	▲43.5	▲15.2	▲12.8	▲15.6	▲16.6	▲3.8	▲3.4	▲4.1	▲5.4
9月	▲51.0	▲38.6	▲13.3	▲10.3	▲15.0	▲12.4	▲1.4	▲3.9	▲3.5	▲3.6
12月	▲34.5	▲21.8	▲10.8	▲15.0	4.0	▲12.7	▲1.6	▲4.0	▲4.2	▲2.9
21年 3月	▲36.3	▲19.8	▲12.2	▲17.6	10.0	▲16.5	▲4.5	▲5.0	▲3.8	▲3.2
6月	0.2	8.5	▲3.3	▲11.1	22.9	▲8.3	▲3.6	▲3.2	▲1.3	▲0.2
9月	2.0	11.2	▲1.3	▲7.5	20.0	▲9.2	▲3.9	▲2.4	▲1.5	▲1.4
見通し	38.5	36.0	13.7	10.4	11.9	2.5	▲2.6	0.0	1.0	4.1
(寄与度、前期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
									景気	雇用環境
18年 12月	▲1.1%	1.1%	▲2.4%	▲2.2%	5.5%	▲1.9%	0.0%	▲0.6%	▲1.3%	▲0.2%
19年 3月	14.8%	8.9%	4.5%	1.6%	3.0%	5.6%	1.9%	1.7%	1.4%	0.8%
6月	▲19.3%	▲16.0%	▲1.7%	0.2%	▲14.3%	▲3.7%	0.0%	▲1.7%	▲2.0%	0.2%
9月	▲18.5%	▲13.1%	▲4.9%	▲8.0%	▲0.3%	▲5.1%	▲2.9%	0.9%	▲1.5%	▲1.8%
12月	▲36.0%	▲27.3%	▲8.3%	▲3.9%	▲15.1%	▲8.7%	▲2.1%	▲2.7%	▲1.5%	▲2.4%
20年 3月	▲2.5%	▲2.3%	▲1.0%	▲1.1%	▲0.2%	▲0.2%	0.4%	0.1%	▲0.6%	▲0.1%
6月	▲16.8%	▲10.8%	▲4.3%	▲3.2%	▲3.4%	▲6.0%	▲0.7%	▲1.9%	▲1.3%	▲2.1%
9月	▲2.2%	▲2.9%	▲1.0%	▲2.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.1%	▲0.3%	0.6%
12月	▲8.8%	▲3.3%	▲3.0%	▲6.0%	5.8%	▲5.5%	▲1.4%	▲1.7%	▲1.4%	▲0.9%
21年 3月	▲3.2%	▲0.3%	▲1.7%	▲2.7%	4.2%	▲2.9%	▲1.8%	▲0.6%	▲0.1%	▲0.3%
6月	12.9%	11.6%	3.0%	2.2%	6.5%	1.3%	0.1%	▲0.1%	0.8%	0.5%
9月	▲0.7%	▲0.7%	0.6%	0.7%	▲2.0%	0.0%	0.2%	0.7%	▲0.5%	▲0.4%
見通し	20.1%	16.3%	8.8%	8.1%	▲0.6%	3.7%	▲0.4%	0.2%	0.6%	3.4%
(寄与度、前年同期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数				暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
									景気	雇用環境
19年 9月	▲21.7%	▲17.1%	▲4.3%	▲8.7%	▲4.1%	▲4.6%	▲1.1%	0.6%	▲3.1%	▲1.0%
12月	▲63.6%	▲50.8%	▲11.9%	▲11.1%	▲27.7%	▲13.1%	▲3.6%	▲2.0%	▲3.6%	▲3.8%
20年 3月	▲96.9%	▲74.5%	▲21.1%	▲17.1%	▲36.3%	▲22.4%	▲5.7%	▲4.2%	▲7.0%	▲5.5%
6月	▲92.8%	▲66.9%	▲23.4%	▲19.7%	▲24.0%	▲25.5%	▲5.8%	▲5.2%	▲6.3%	▲8.3%
9月	▲66.2%	▲50.1%	▲17.3%	▲13.4%	▲19.5%	▲16.1%	▲1.9%	▲5.0%	▲4.6%	▲4.6%
12月	▲33.0%	▲20.8%	▲10.3%	▲14.3%	3.8%	▲12.1%	▲1.5%	▲3.8%	▲4.0%	▲2.8%
21年 3月	▲33.8%	▲18.5%	▲11.4%	▲16.4%	9.3%	▲15.4%	▲4.2%	▲4.7%	▲3.5%	▲3.0%
6月	0.2%	6.8%	▲2.6%	▲8.9%	18.3%	▲6.6%	▲2.9%	▲2.6%	▲1.0%	▲0.2%
9月	1.6%	8.8%	▲1.0%	▲5.9%	15.6%	▲7.2%	▲3.0%	▲1.9%	▲1.2%	▲1.1%
見通し	27.7%	25.9%	9.8%	7.5%	8.5%	1.8%	▲1.9%	0.0%	0.7%	2.9%

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数(伸び率)とは必ずしも一致しません。

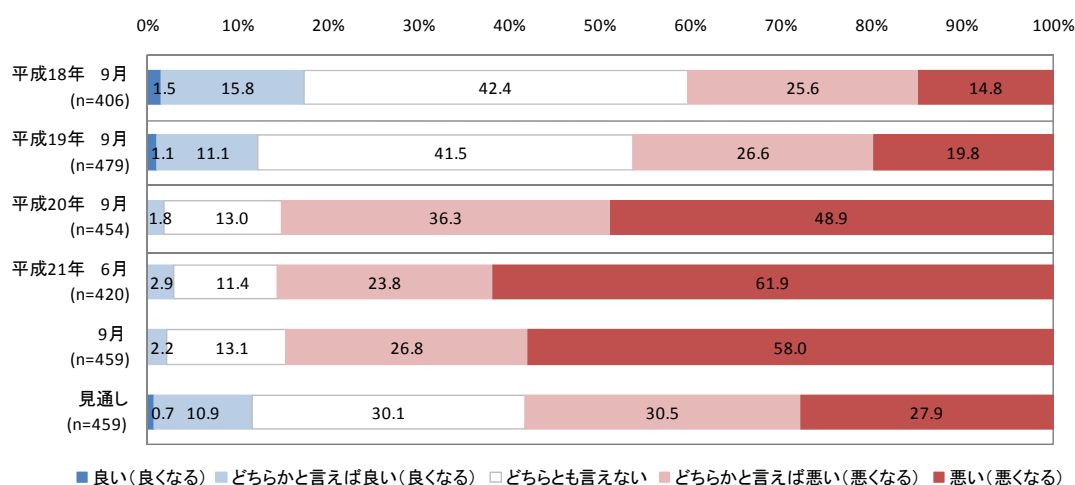
## Ⅱ. 調査結果

### 1. 景気判断と見通し

#### ① 県内景気

現状認識は「悪い」(58.0%)と「どちらかと言えば悪い」(26.8%)を合わせると84.8%の世帯が悪いと判断しており、景気悪化に対する認識はこのところ下げ止まっている。今後の見通しについては「悪くなる」(27.9%)および「どちらかと言えば悪くなる」(30.5%)と考えている世帯の割合は58.4%となっており、先行き不安感も和らいでいる。

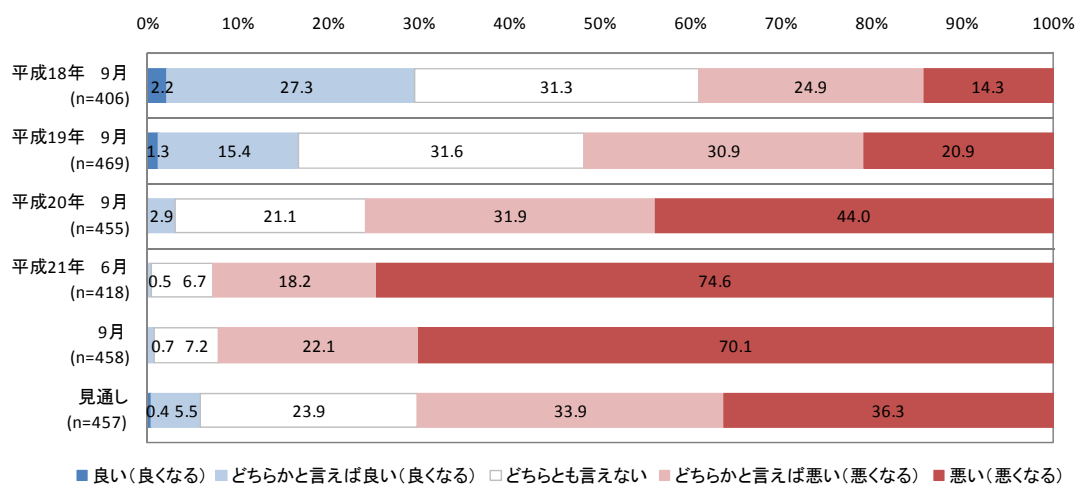
図表 4 県内景気に対する認識



#### ② 雇用環境

現状認識は「悪い」(70.1%)と「どちらかと言えば悪い」(22.1%)を合わせると92.2%の世帯が悪いと判断しているなど、雇用環境の悪さに対する警戒感が高い。ただ、今後の見通しについては「悪くなる」(36.3%)および「どちらかと言えば悪くなる」(33.9%)と考えている世帯の割合は70.2%にまで低下しており、先行き不安感も和らいでいる。

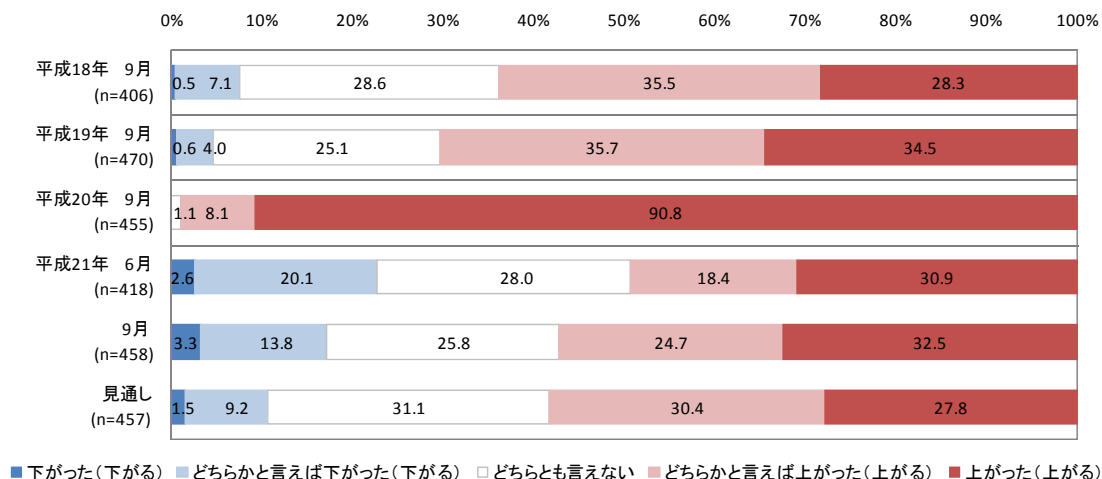
図表 5 雇用環境に対する認識



③ 日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（32.5%）と「どちらかと言えば上がった」（24.7%）を合わせると57.2%の世帯が上がったと感じており、再び物価上昇に対する警戒感が高まりつつある。今後の見通しについても、「上がる」（27.8%）および「どちらかと言えば上がる」（30.4%）と考えている世帯は58.2%となっており、警戒感が高い。

図表 6 日用品価格（物価）に対する認識



図表 7 景気・雇用・物価などに関する主な自由回答

(世帯主年齢、住まい)

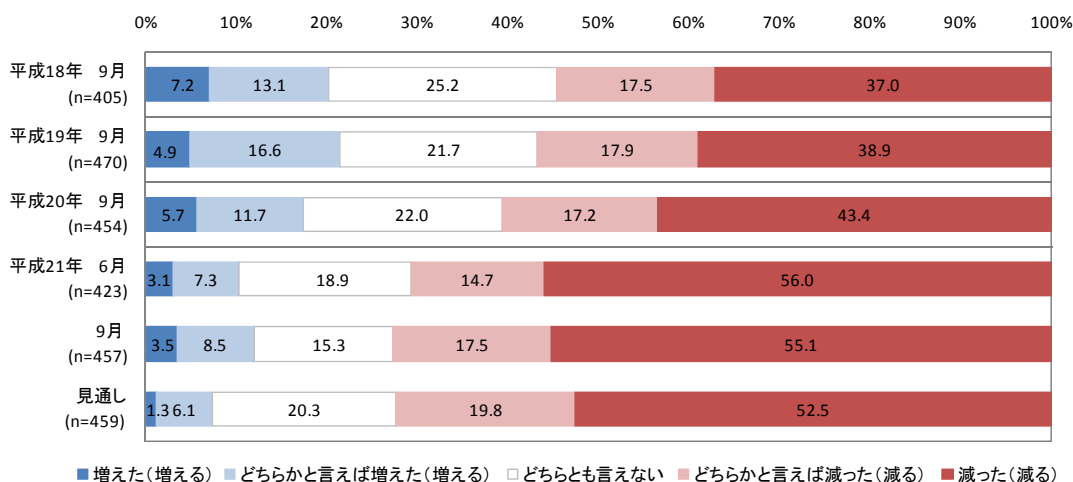
- <景気全般>
- ・ 政権交代をきっかけに日本が変わってほしい。(30 歳 庄内地区)
  - ・ 最近、テナント募集中のビルが目立つようになった。大企業は持ち直しても、個人経営等はまだまだ厳しいのかなと感じる。地域活性化のために大企業の資本を入れるより、個人店舗を集めて出店できたらいいのと思う。(32 歳 村山地区)
  - ・ 中央、製造関係は回復してきたようだが、中小、地方の経済はまだ冷えた状態が続いている。家計も厳しい。スーパーの特売品での生活はつらい。たまに外食したい。(35 歳 村山地区)
  - ・ 政権交代が実現し、実際のくらしがどのように変わるのか不安もあるが、期待感が非常に大きい。(42 歳 村山地区)
  - ・ 株価が一時期より上がっているが、今後また下がるのではないかと各指標が最悪で、秋以降ジリジリ下がっていくのでは。(44 歳 庄内地区)
  - ・ 8 月は帰省があったので出費が多くなった。不況だと感じるほどに悪くはないが、夫の給料も引き下げになり、少しずつ悪くなっているを感じる。(45 歳 村山地区)
  - ・ 景気がよくなっていると聞かすが、勤務時間の短縮が続いている。今後、どうなるのかわからないが、何か変わる事を期待している。(47 歳 庄内地区)
  - ・ 夫の会社の状況が少しずつ回復してきたように思う。土、日も工場が稼働しているようで、残業も少しずつ増えてきた。益明けから景気の実感している。(48 歳 置賜地区)
- <雇用>
- ・ ボーナスもなくなり収入も減り、いつリストラがあるかわからず、車や家など大きな買い物ができない。収入が少なくても安定していれば、家はムリでも子供は望めるのに、今の状態では難しい。子供手当の前に、まずは仕事を安定させるのが第一であると思う。(26 歳 村山地区)
  - ・ 息子が東京で働いていたが、戻ってきてしまい再就職できないでいる。友人にも卒業後一度も仕事をしていない子もいるようだ。来年は娘も就職だが、もっと求人が少ないとのこと。何とか雇用を増やしてほしい。(43 歳 庄内地区)
  - ・ 高校生の就職難のニュースをよく耳にし、昨年末からの不況の影響をひしひしと感じます。(45 歳 庄内地区)
  - ・ 3 月にパートを解雇され、未だ職が見つからず、夫も勤務が減らされた。子供たちの収入など当てにできず、ローンもあって大変厳しい。鳩山さんで少しは変わってほしい。(49 歳 置賜地区)
  - ・ 就活中の大学生がいるが、内定が貰えず困惑している。(52 歳 村山地区)
  - ・ 私は社員から派遣になり派遣切りとなり、来春 3 月までの緊急雇用対策で雇用されている。子供が卒業を迎え就職も決まらず、春を迎えられるかザワザワしている。新体制に期待するところは大きい。贅沢もせず慎ましく生きている。それが人生なのかと思ってしまう。(53 歳 村山地区)
  - ・ 子供の就職が決まらないのが一番の問題である。(58 歳 村山地区)
  - ・ 会社では毎年、高校生に求人を出していたが、今年はその予定が立っていない。また、春先には休業し、休業補償助成金申請もした。民主党政権には期待半分、不安半分。でも、子の状況をよくしてくれるのは政治しかない。(58 歳 庄内地区)
- <物価>
- ・ 野菜の値段が上がったので、食費のやりくりが難しい。(33 歳 置賜地区)
  - ・ 収入は上がらないのに物価はどんどん高くなり数年前よりきつい状況。スーパーではポイントが高く付く日や買い得の日はお客様が集中しているので、皆、生活を切り詰めようとしているのではないかと。(41 歳 庄内地区)
  - ・ 物価が上がっているのと同じ買物をしているつもりでも以前よりお金の減るスピードが早く感じます。子供が2人になってから支出が増え、貯金できる金額が少なくなりました。(42 歳 村山地区)
  - ・ 給料が減るのに物価が上がって大変。山形は田舎なのに何でも高いのはなぜ？(45 歳 村山地区)
  - ・ 今年の夏は涼しくて過ごしやすかったが、野菜が高くて参った。値段が変わらず量が減っていたりで、不景気のうえ値上がりもあるのだなど、がっかりなことが多い。(46 歳 村山地区)
  - ・ ガソリンがじわじわ値上がりしているので、これから灯油の価格も気になる。今回は夫の転勤で出費が多く、給与も減ってしまうので、いままで以上に節約を心がけていく。いまの政治には何も期待できない。(48 歳 村山地区)
  - ・ ガソリン代がじわじわ値上がりしている。車4台保有しているので困る。灯油も値上がりするのと思うと、節約に気を使う日々である。(55 歳 村山地区)

2. 暮らし向き判断と見通し

① 世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」（55.1%）と「どちらかと言えば減った」（17.5%）を合わせると72.6%の世帯で収入が減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」（52.5%）および「どちらかと言えば減る」（19.8%）と考えている世帯が72.3%となるなど、引き続き収入減に危機感を募らせる世帯は多い。

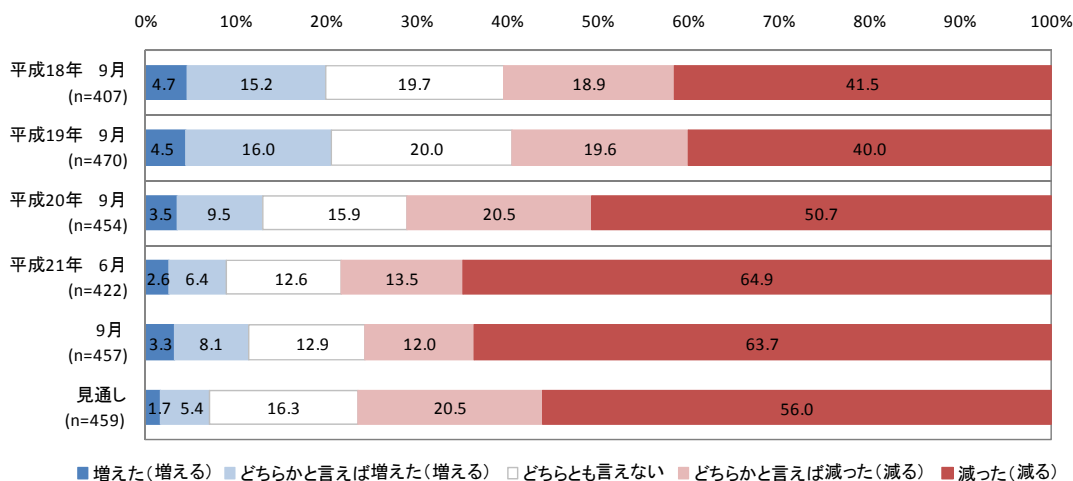
図表 8 世帯（勤労）収入に対する認識



② 資産価値

現状認識は「減った」（63.7%）と「どちらかと言えば減った」（12.0%）を合わせると75.7%の世帯が資産価値は減ったと感じており、資産価値の下落を気にする世帯は下げ止まっている。ただ、今後の見通しについては資産価値が「減る」（56.0%）および「どちらかと言えば減る」（20.5%）と考えている世帯の割合が76.5%あり、資産価値の下落に対する警戒感は根強い。

図表 9 資産価値に対する認識

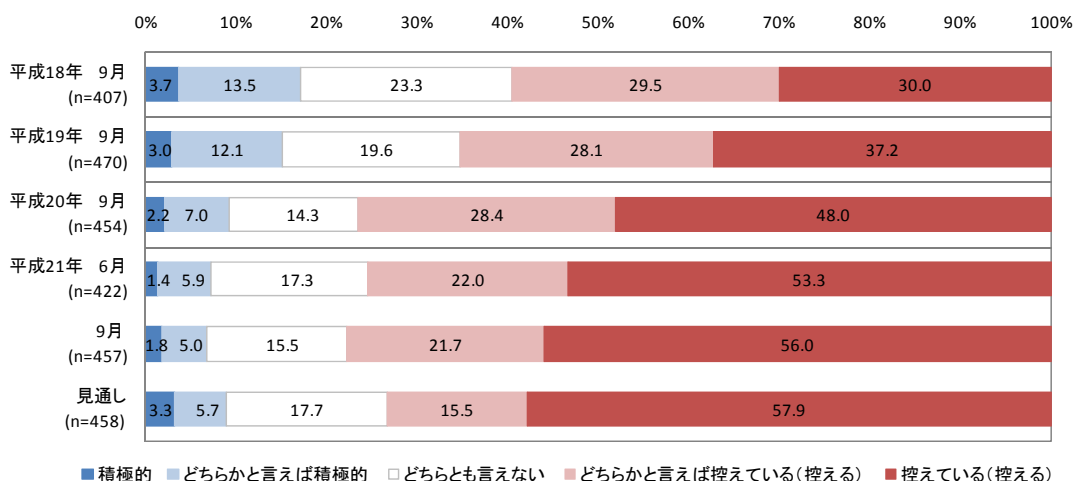




③ お金の使い方（支出状況）

現状認識は「控えている」（56.0%）と「どちらかと言えば控えている」（21.7%）を合わせると 77.7%の世帯がお金を使うことを控えており、支出意欲はさらに低下している。今後の見通しについては「控える」（57.9%）および「どちらかと言えば控える」（15.5%）という世帯が 73.4%となっており、県民の節約思考は強い。

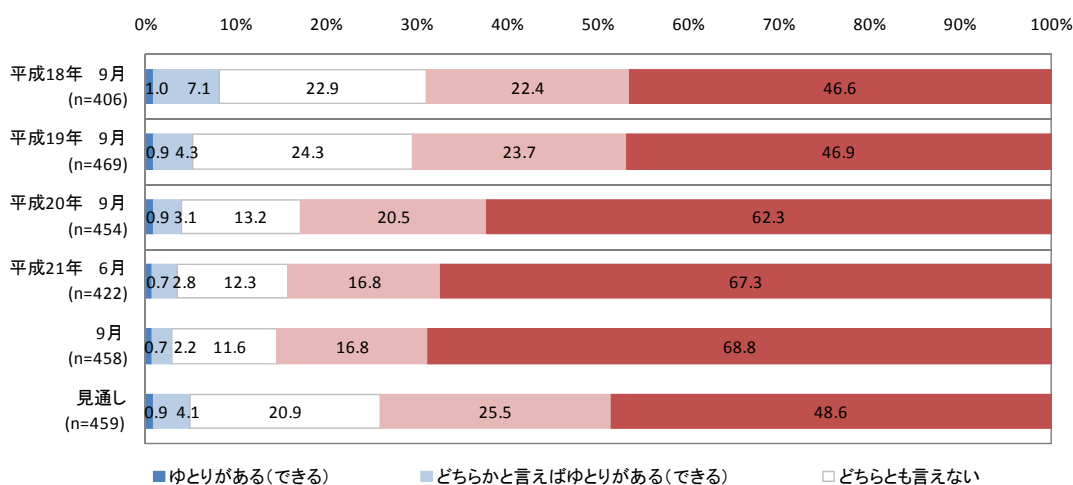
図表 10 お金の使い方（支出状況）に対する認識



④ 生活のゆとり

現状認識は「厳しい」（68.8%）と「どちらかと言えば厳しい」（16.8%）を合わせると 85.6%の世帯が厳しいと感じているなど、生活のゆとりを実感できない世帯は増えている。今後の見通しについては、「厳しくなる」（48.6%）および「どちらかと言えば厳しくなる」（25.5%）と見込む世帯が 74.1%と高いものの、最悪期は脱しつつある。

図表 11 生活のゆとりに対する認識



図表 12 収入・資産・お金の使い方・生活のゆとりに関する主な自由回答

(世帯主年齢、住まい)

<収入>

- ・ 早く景気回復して、サラリーが増えて欲しい。(51歳 置賜地区)
- ・ 給与が減り生活が苦しくなった。転職したいが雇用に不安があり、今しばらく我慢の時だと思う。投信の価値が半分ほどになり買った事を後悔している。今後は買わないだろう。(32歳 村山地区)
- ・ 収入が減っている。子供の成長とともに教育費がかかるので大変である。政権が変わったので少しでも生活が楽になる事を望む。(45歳 村山地区)
- ・ 春からパートの時間と時給が減り、収入が大幅減少。生活が苦しくなってきた。子供手当や公立高無償化は我が家にはもう関係なく、配偶者控除廃止で負担が大きくなるのではと不安である。(47歳 村山地区)
- ・ 給与カットが、やっと8月分で終わった。9月からもとに戻る予定だが、生活はできるだけシンプルにと思う。リサイクル、リフォーム、リユースし、リサイクルショップも活用している。家の中から物を減らし、スリム化を進めている。(49歳 庄内地区)

<お金の使い方>

- ・ 減らせるところは何でも減らす。食費はかなり切り詰めている。(29歳 置賜地区)
- ・ 収入が減り、使いたくてもお金が使えない。支出を抑えて毎日細々と暮らすしかない。収入が増えなければ支出も増えないので、景気もよくなれないと思う。(31歳 置賜地区)
- ・ ここ数年貯金のできない状況で、なんとかやりくりして暮らしている。今は、幼稚園費用が大きな支出になっている。小学校に入学したらすこしゆとりができるのではと思っている。(35歳 村山地区)
- ・ 7月が最も収入が低く、前会社の解雇手当などで乗り切った状態。交際費や贈答などの出費で困った。よく安売りをしていたスーパーが価格をあまり下げなくなると感じる。失業率が5%を越したと報じられているが、隠れ失業率ももっと高いと感じる。(36歳 村山地区)
- ・ 世帯主が非正規労働者のため収入が少なく、最低限の生活費以上は切り詰めている状況。政権交代で景気回復を期待する。(41歳 置賜地区)
- ・ 県立高でも授業料が高いと感じる。近くにスーパーがたくさんあるので、チラシを見比べて買い物をしている。車がないと不便なので、この冬はガソリン、灯油の値上げが気になる。(51歳 庄内地区)
- ・ 食料はまとめ買いをしないで、毎日食べる分を値下げになっている商品から選び献立を考える。冷蔵庫にも食品はあまり入れず使い切る。日用品は一度になくならないように、種類をずらして買う。またはポイント増の日に買う。一日に使う金額を決めて残った小銭は貯金箱へ(400~700円/月)。これを通帳へ移すのがささやかな楽しみである。(56歳 村山地区)
- ・ 辛い収入が安定しているので、今のところ落ち着いているが、いつ何があってもいいように常に節約や財テクを考えてアンテナをめぐらせている。株や外貨もいまひとつ不安な昨今、安い時給でコツコツ働くのが一番なのだろうか。(44歳 庄内地区)
- ・ 無駄遣いをしないで、貯金を増やしたい。(59歳 庄内地区)
- ・ 少し貯金があるが、将来が不安で使えない。節約して生活している。(71歳 村山地区)

<生活のゆとり>

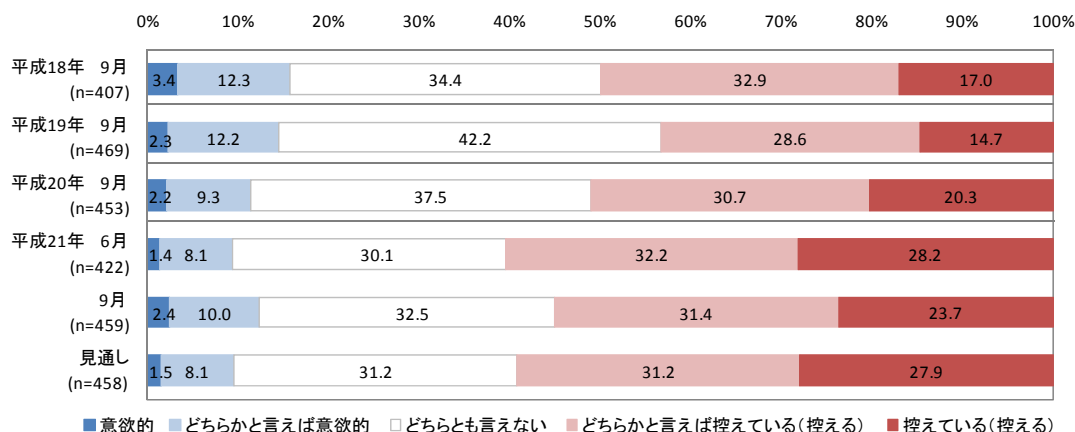
- ・ 仕事をしながらの子育ては大変で、収入が少ないと暮らしていくのは大変である。子供手当をもう少し充実してほしい。(29歳 村山地区)
- ・ 私も仕事を始めたのでその分少し余裕ができた。最近テレビでも取り上げられているが、仕事がしたくても保育所が空かないために職に着けない人がたくさんいると思う。少子化が問題なら子供を産んでも生活しやすい、働きやすい環境をつくってもらいたい。民主党に期待している。(36歳 村山地区)
- ・ 下の子が小学生になり、一番ゆとりのあるはずの時期なのだが、先に不安があるので貯蓄しなければとの思いが強い。時間、体力、経済的にも余裕のあるこの時期に旅行など楽しみたいが躊躇している。(37歳 村山地区)
- ・ 結婚当初たてた人生設計ではとくにマイホームに住んでいる年齢だが、何年間も賞与のない現状にマイホーム取得はかなわぬ夢となりそう。民主党政権に期待はしているが信用はしていない。子育て支援もよいが、まずは景気対策に取り組んで欲しい。(37歳 村山地区)
- ・ 節約を意識し生活しているが、減給、公共料金の値上がり、ガソリン代など生活を圧迫している。子供の成長に伴い出費が増えている。(42歳 庄内地区)
- ・ 世帯収入は増えたが、子供の成長とともに教育費がかかり貯蓄ができない。就職難な時代で子供が就職できるか不安である。(47歳 村山地区)
- ・ 歳をとると医療費が増える。税金も重くのしかかっているし、車も買い替えねば。子供の結婚式の費用もかかる。(65歳 村山地区)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」（23.7%）と「どちらかと言えば控えている」（31.4%）を合わせると 55.1%の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が多く、買い控える傾向は強い。

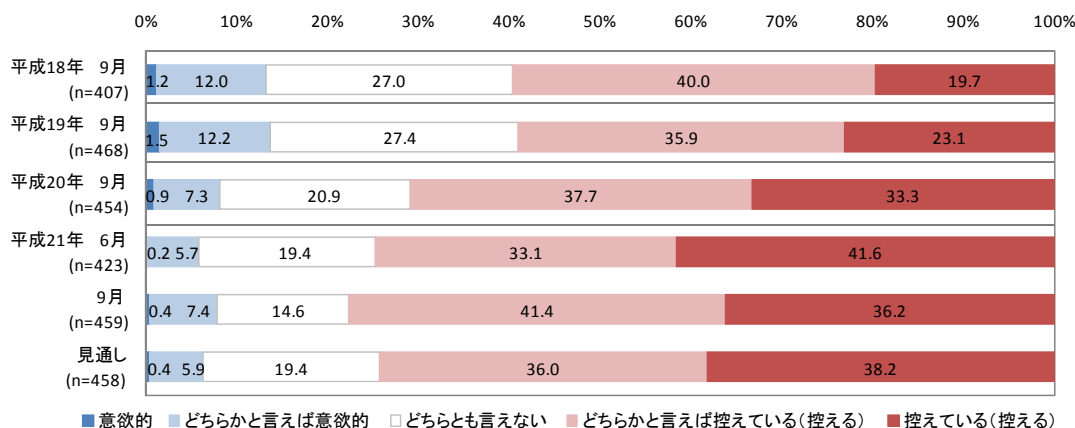
図表 13 嗜好品の購入意向



② ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」（36.2%）と「どちらかと言えば控えている」（41.4%）を合わせると 77.6%の世帯が購入を控えており、買い控える傾向は強まっている。今後の見通しについても依然として購入を控えると考えている世帯は多く、支出意欲は低調のまま推移する見込み。

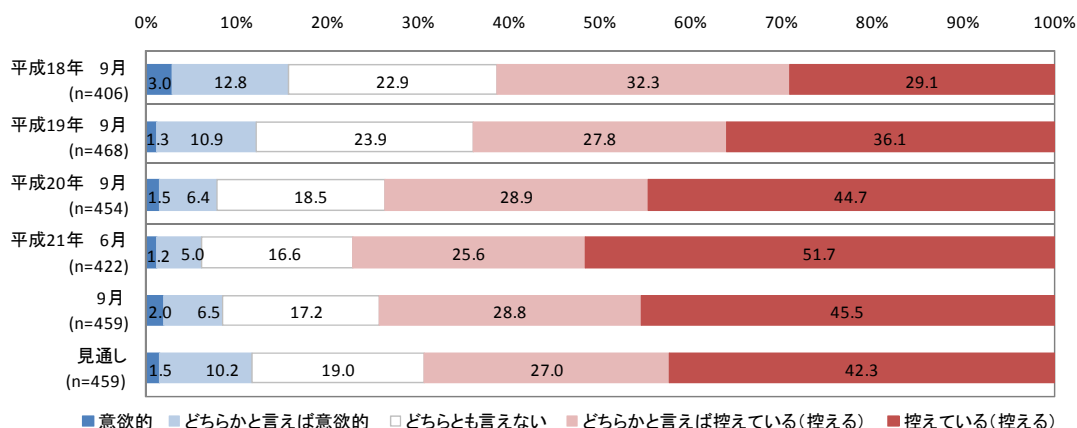
図表 14 ファッション衣料・靴などの購入意向



③ 家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(45.5%)と「どちらかと言えば控えている」(28.8%)を合わせると74.3%の世帯が購入を控えている。今後の見通しについては、購入を控えると考えている世帯が減ってきていることから、支出意欲は低調ながらも改善が見込まれる。

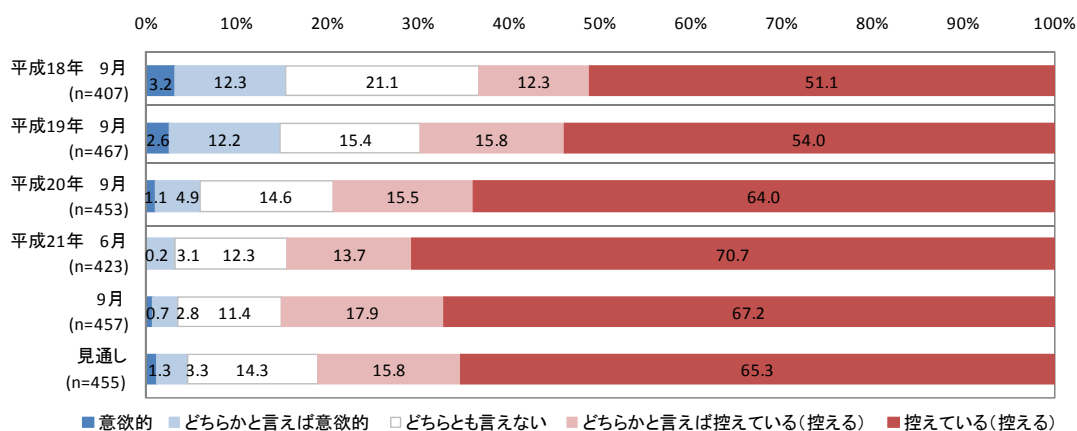
図表 15 家電・AV製品・家具などの購入意向



④ 金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(67.2%)と「どちらかと言えば控えている」(17.9%)を合わせると85.1%の世帯が購入を控えており、購入を控えている世帯は一段と増えている。今後の見通しについても、購入を控えると考えている世帯は依然として多く、支出意欲は低調のまま推移する見込み。

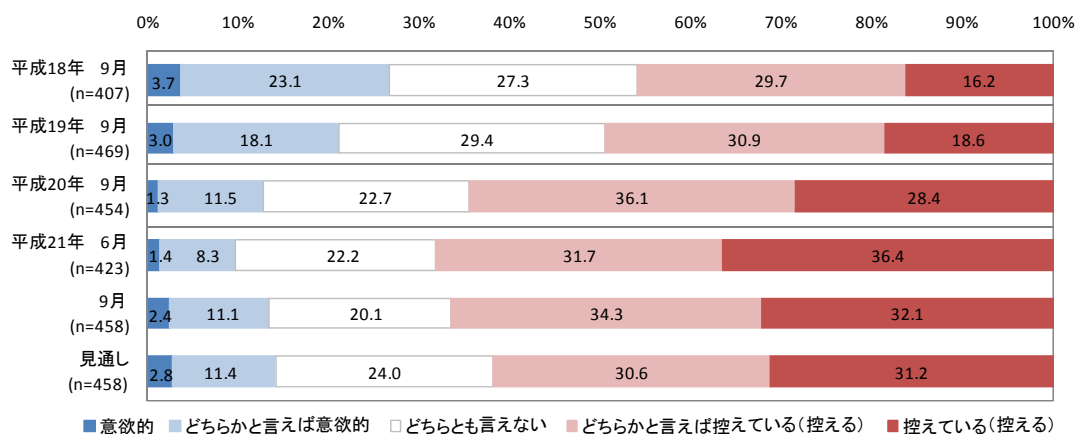
図表 16 金融商品の購入意向



⑤ 娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(32.1%)と「どちらかと言えば控えている」(34.3%)を合わせると66.4%の世帯が支出を控えているが、最悪期は脱した感がある。また、今後の見通しについても、支出意欲低調ながらも改善の兆しがみられる。

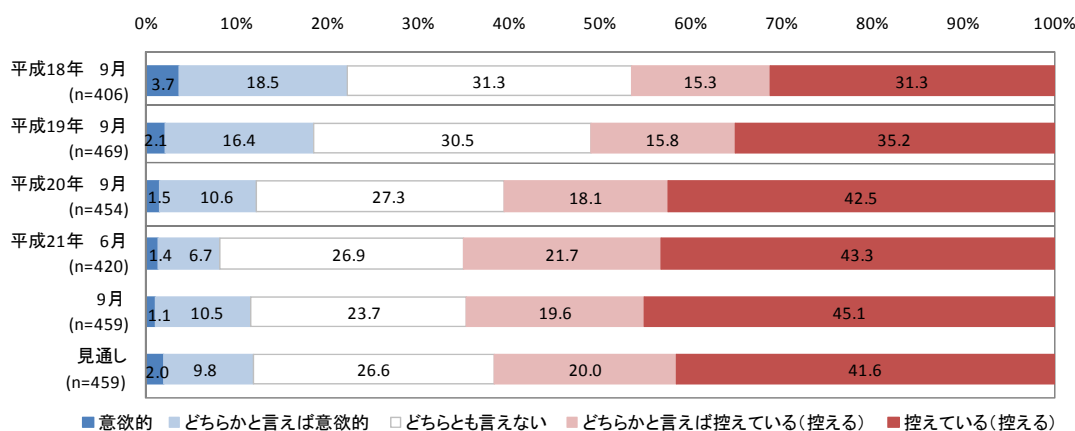
図表 17 娯楽・レジャーへの支出意向



⑥ 習い事

現状認識は「控えている」(43.3%)と「どちらかと言えば控えている」(21.7%)を合わせると65.0%の世帯が支出を控えているが、最悪期は脱した感がある。また、今後の見通しについても、支出意欲低調ながらもわずかに改善の兆しがみられる。

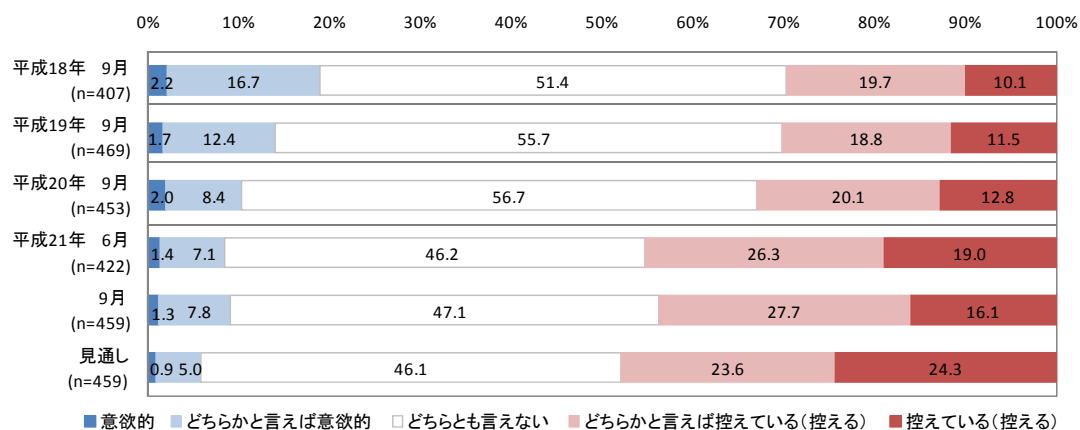
図表 18 習い事への支出意向



⑦ 交際費

現状認識は「どちらとも言えない」と回答した世帯が最も多いが、「控えている」(16.1%)と「どちらかと言えば控えている」(27.7%)と答えた世帯が43.8%となるなど、支出を控えている世帯は多い。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えると考えている世帯の割合が増えていることから、支出を手控える傾向は一段と強まる見込み。

図表 19 交際費の支出意向

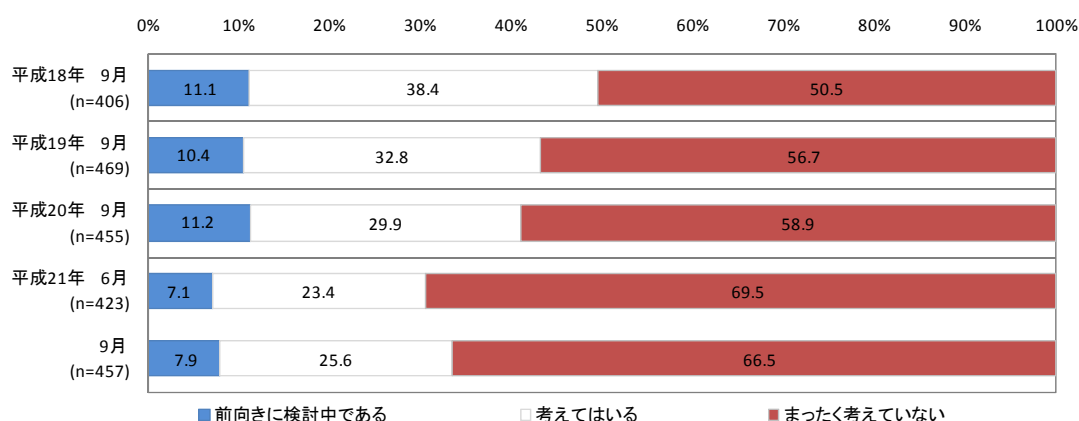


4. 大きな買い物に関する判断と見通し

① 自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が66.5%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は7.6%ポイント増えており、購入を控える傾向が強まっている。

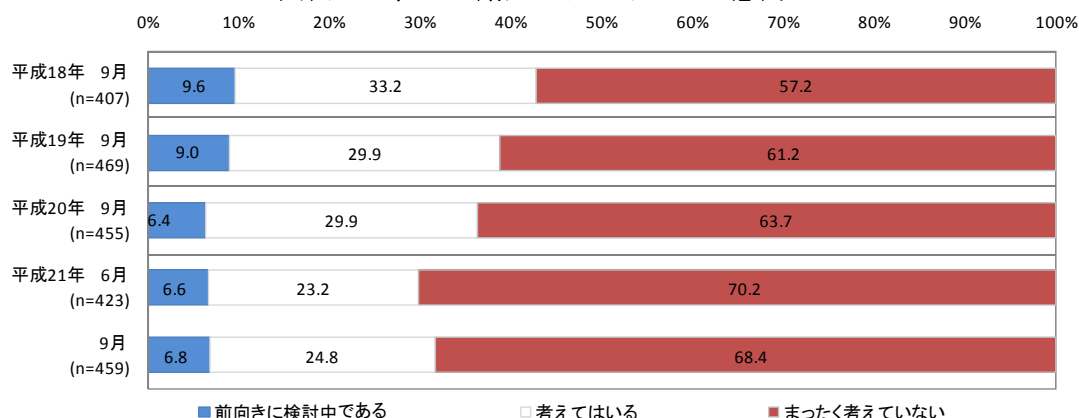
図表 20 自家用車の購入意向



② 住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」という世帯が68.4%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は4.7%ポイント増えており、購入を控える傾向が強まっている。

図表 21 住宅の購入・リフォームの意向



### Ⅲ. 今月の家計簿

今回の家計簿調査によれば、世帯の平均月収は44.8万円となっており、前年同期比でみて2.3万円(▲4.9%)の減収となった。特に、世帯主の収入が1.7万円の減収(寄与度:▲3.6%)と大きかったことが収入減の主な要因。

一方、世帯の平均支出は36.5万円となっており、前年同期比でみて1.1万円の減少(寄与度:▲2.8%)となった。特に、「育児・教育費」や「小遣い」などの支出が減ったことが支出の削減に寄与している。

なお、平均消費性向は81.4%であり、前年同期比でみて1.8ポイント増加した。

図表 22 収入・支出の動向

(単位:円)

	20年 9月	21年 6月	9月	前期比		前年同期比			
					寄与度		寄与度		
収入	①定期収入	236,564	234,245	226,221	▲8,024	▲2.0%	▲10,343	▲2.2%	
	②臨時収入	22,189	6,631	15,784	9,153	2.2%	▲6,405	▲1.4%	
	1. 世帯主の収入	258,753	240,876	242,005	1,129	0.3%	▲16,748	▲3.6%	
	①他の人員の定期収入	118,191	108,864	113,795	4,931	1.2%	▲4,396	▲0.9%	
		②他の人員の臨時収入	15,912	4,688	8,761	4,073	1.0%	▲7,151	▲1.5%
	2. 他の人員の収入	134,103	113,552	122,556	9,004	2.2%	▲11,547	▲2.5%	
	①社会保障給付	33,522	23,654	32,893	9,239	2.3%	▲629	▲0.1%	
		②預(貯)金引き出し	35,131	22,439	23,856	1,417	0.3%	▲11,275	▲2.4%
		③借り入れ	2,792	1,014	20,691	19,677	4.8%	17,899	3.8%
		④財産売却	0	45	67	22	0.0%	67	0.0%
		⑤その他	6,767	8,678	5,745	▲2,933	▲0.7%	▲1,022	▲0.2%
	3. その他収入	78,212	55,830	83,252	27,422	6.7%	5,040	1.1%	
	I. 収入計	471,068	410,258	447,813	37,555	9.2%	▲23,255	▲4.9%	
	支出	1. 食費	58,540	58,169	57,368	▲801	▲0.2%	▲1,172	▲0.3%
2. 住居費		47,190	52,314	51,851	▲463	▲0.1%	4,661	1.2%	
3. 水道・光熱費		23,784	25,532	22,643	▲2,889	▲0.8%	▲1,141	▲0.3%	
4. 通信・交通費		33,556	31,777	31,657	▲120	▲0.0%	▲1,899	▲0.5%	
5. 被服・装飾費		11,160	11,339	10,278	▲1,061	▲0.3%	▲882	▲0.2%	
6. 各種保険料の支払い		38,811	42,064	38,372	▲3,692	▲1.0%	▲439	▲0.1%	
7. 医療・介護費		10,719	10,899	10,615	▲284	▲0.1%	▲104	▲0.0%	
8. 育児・教育費		28,214	30,818	24,791	▲6,027	▲1.7%	▲3,423	▲0.9%	
9. 仕送り		9,317	8,075	10,885	2,810	0.8%	1,568	0.4%	
10. 小遣い		42,907	38,590	39,510	920	0.3%	▲3,397	▲0.9%	
11. ローン・月賦の支払い		16,145	15,738	14,985	▲753	▲0.2%	▲1,160	▲0.3%	
12. その他支出		54,787	35,480	51,560	16,080	4.5%	▲3,227	▲0.9%	
II. 支出計	375,130	360,795	364,515	3,720	1.0%	▲10,615	▲2.8%		
平均消費性向(支出計÷収入計×100)	79.6%	87.9%	81.4%	▲6.5%ポイント	—	1.8%ポイント	—		

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても収入計もしくは支出計の寄与度(伸び率)とは必ずしも一致しません。



## IV. 調査の概要

### 1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：467世帯 ※今回の有効回答世帯数（回答率）：459世帯（98.3%）

### 3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

### 4. 調査期間

- ・ 平成21年9月1日～14日

### 5. 調査項目

#### （1）判断項目

##### ① 景気判断（五肢択一）：

「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

##### ② 暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

##### ③ 日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

##### ④ 大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

#### （2）計数項目

##### ① 最近1ヵ月の収支状況

## 6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(▲0.5)、「悪い」(▲1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

### <お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／齋藤（信）

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@sfsi.co.jp

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>